



主の昇天 (マルコ 16:15-20)

あなたが声を出すその一瞬前に、使命を思い出そう

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」
(16・15) 弟子たちはイエスの指示を忠実に果たしました。「弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。」(16・20) 忠実にイエスの指示を果たすことで、私たちもイエスの弟子として役割を担いましょう。

長崎県は、現在新型コロナウイルス感染症の警戒態勢が、最大警戒の「5」に引き上げられました。この状態では、人が集まることさえはばかれます。けれどもミサはキリスト信者の「命に関わる部分」ですので、最大限続けたいです。そこでミサを続ける苦肉の策として、残念ではありますが聖歌を歌わずにミサを続けたいと思います。

今週は主の昇天で、答唱詩編は「主はのぼられた」という「ここでしか歌わない聖歌」の予定でしたし、来週は聖霊降臨で「聖霊の続唱」を歌うのを楽しみにしていましたが、今年は歌う代わりに唱えたいと思います。ただ YouTube にアップするミサ動画ではお告げのマリア修道会本部の協力を得て、聖歌を聞くことが出来ます。チャンネル登録をよろしくお願いします。

県全体の警戒が最大警戒となったことで、聖堂に集まって唱える聖母月のロザリオを、中止せざるを得ませんでした。家族でロザリオを唱える習慣があるなら、ぜひ家庭で続けて唱え、新型コロナウイルス感染症の世界中での終息を願ってロザリオを唱えるように呼びかけている教皇フランシスコと共に歩んでほしいと思います。

さて問題は、「家族でロザリオを唱える習慣がない家庭」です。ロザリオを唱えないのだから、教皇フランシスコと共に歩むことができないと、最初から諦めてよいのでしょうか。もちろん、決してそうではないと思います。ロザリオは無理でも、何か形を変えて、教皇様の意向を汲んだ生活をすべきだと思います。

そもそも、自分の生活の中に、祈りがあっただろうか。ここから考えてみましょう。朝の祈りか、夕の祈りを唱えているなら、生活の中に祈りがある人ですから、朝夕の祈りを始める時に「教皇様と共に歩みます。世界中の新型コロナウイルス感染症が終息しますように」と心で唱えてから祈ってください。

祈祷書を開いて祈ることはしなくても、かろうじて祈る時がある。そういう人もいるでしょう。評議会、連絡会、日曜日のミサ、こうした場面でも、「教皇様と共に歩みます。世界中の新型コロナウイルス感染症が終息しますように」と前置きして始めることは可能です。

かろうじて祈る人は、もう少し祈りましょう。会社に出勤する時、自宅を出るその瞬間に、「教皇様と共に歩みます」この意向を思い出してください。あるいは会社を退勤する、その瞬間に思い出すなら、もう少し祈りが生活の中に取り込まれますね。

家庭にある人は、台所に立つこともあるでしょう。台所に立つ最初の場面で、また片付けを終え、台所を離れるその場面で、「教皇様と共に歩みます」この意向を思い出すと、もっと祈りが生活の中に取り込まれます。ほかにも、それぞれの人が工夫して、生活に祈りを取り込むことは十分可能です。食事のあとさき、趣味の時間を始める時終える時などです。

もっと踏み込んで、言いましょ。あなたが声を出す瞬間、その一瞬前に、「教皇様と共に歩みます。世界中の新型コロナウイルス感染症が終息しますように」と言ってください。ご年輩の皆さんは、椅子に座り、椅子から立ち上がる時に「よいしょ」と言うでしょう。その一瞬前に、思い出すのです。「教皇様と共に歩みます！」一日何回「よいしょ」と言いますか？そのたびに、新型コロナウイルス感染症の終息のためにできることがあるのです。

冒頭の、イエスが弟子たちに命じられたことを思い出しましょう。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」(16・15)「全世界」とは、国を超えて、地域を越えてというだけでなく、私たちが身を置くありとあらゆる場面です。あなたが「よいしょ」と言って座る場所は、見ず知らずの人と出会う、大切な場所かも知れません。見ず知らずのその人と、新型コロナウイルス感染症の終息を願う会話をするために、「よいしょ」と座るその一瞬前に、「教皇様と歩みを共にします」と念じておけば、必ず福音を伝える機会になるでしょう。

これだけ言うと、恐らく皆さんは来週まで一週間「『よいしょ』って言うのをやめよう」と後ろ向きの考えをするかも知れません。けれどもご心配なく。高齢者の皆さんが「よいしょ」と言わないのは無理です。だから必ず、あなたにも、あなたにも、教皇様と共に歩むチャンスが、福音宣教するチャンスが、巡ってくるのです。

弟子たちはイエスの指示を忠実に果たしました。「弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。」(16・20) 私たちはどうしますか？決めるのは自分です。イエスが約束してくださる「助け主である聖霊」に信頼して歩み出すか、歩みを止めるかです。現在 84 歳の教皇様と共に、新型コロナウイルス感染症の終息のために力を貸しますか、貸しませんか？小さなお手伝いでも、いつか世界を変える力になり得ます。

聖霊降臨の主日(ヨハネ 20:19-23)